野球愛好者の夢砕く

無残な姿 松原球場

改修工事中に大震災 「ほぼ完成していたのに」

陸前高田市の高田松原野球場改修工事は、3月15日までの工期だったが、その4日前の11日に東日本大震災が襲来した。ほぼ完成していた球場は、ナイター照明の支柱とスタンドの一部が残るのみの無残な姿をさらしている。忌まわしい「黒い悪魔」は、電光表示のスコアボードや芝生の上でのプレーを楽しみにしていた野球愛好者らの夢をも奪い去った。

旧球場は、本格球場としては気仙地区でいち早く、昭和43年6月に総工費約4000万円で建設。その記念事業として同年9月に高松宮殿下をお迎えし、高松宮賜杯第12回全日本軟式野球大会が開催されたほか、45年10月には岩手国体の一般軟式野球の部が開かれた。

その後、63年11月には内野（1000ワット×24灯）と外野（1000ワット×30灯）に2基ずつ、総工費6700万円をかけてナイター施設を整備。これまで、市民スポーツの拠点施設として市内外の多くの野球愛好者から利用（年約1万人）されていた。

しかし、建設後40年以上経過して老朽化。グラウンドの水はけが悪くなっていたほか、鉄骨むき出しのフェンスやさび付いたスコアボードが目立ち始めていたことから市が改修工事を進めていた。

主な工事内容は▽内野を除くグラウンド全体に芝生▽両翼92メートル（旧90メートル）、センター116メートル（同113メートル）に拡張▽ラバーフェンスの設置▽スコアボードを電光表示式にし、バックスクリーンを新設――などで、工事費は約3億4300万円。

工期は15日までで、完成後の今夏にはプロ野球の楽天対西武の2軍戦が行われる予定だった。

同市野球協会のある関係者は「新生球場が一度も利用されずに破壊され、本当にがっかりした。今後、再び改修工事が行われて使用できるようになったとしても、津波におびえながらプレーしたいと思う選手がいるだろうか」と話した。

大震災によって破壊された松原球場＝陸前高田市

復興に向け第一歩

職員らが場内後片付け

大船渡魚市場

東日本大震災により大きな被害を受けた大船渡魚市場で23日、職員らが集まって市場内の清掃が行われた。職員らは互いの無事を確認し合うとともに、復興へ向けての第一歩を踏み出した。

清掃作業には職員ら24人が参加。午前9時に同市場に集合し、菅野佑三社長の「みんな元気をだして頑張りましょう。一歩一歩進んでいき、一日も早い復興を目指そう」という激励で意思統一した。

震災以降、初めて全員で集まったという職員らは、市場内に散乱していた上着や机、棚、材木などを片付けたり、1トン以上もある金庫を協力して起き上がらせるなど、正午ごろまで片付けを行った。

自らも被災した職員も数人いるが、それぞれが元気な表情で作業し、復興に向けての強い意思を確認していた。

コンベヤーなどは津波に流されて町中に散らばってしまっているため、徐々に回収していくという。

今後は毎日片付けを行い、漁業者らが魚を水揚げできるよう準備を進めていく。新魚市場完成までの代替地については、片付けをしながら検討していくが、予定としては従来の場所で業務を行うこととしている。

同市場の千葉隆美専務は「海に恩恵を受けてきた我々なので、背中を向けるわけにはいかない。前を向いて立ち向かい、一日も早く業務を再開したい」と、菅野社長は「〝いつでもいらっしゃい〟の体制を整えていく」と話している。

協力して金庫を起き上がらせた職員ら＝大船渡魚市場

吉浜へ衣類多数

―避難所へ分配―

引き取り呼びかけ

大船渡市三陸町吉浜地区の避難所となっている吉浜拠点センター（三鉄吉浜駅に隣接）へ23日、支援物資の衣料が大量に届けられた。市立吉浜中学校に勤務する内陸出身の教諭が教え子に呼びかけ集めたもので、男女別あらゆる世代の洋服がそろっている。

同校の澤田力教諭（34）は、北上市の学校に勤めていた際の同僚・松岡明子さん（釜石市立唐丹中勤務）と協力し、かつての教え子らに衣料支援を依頼。集まった物資は2トントラック計3台分に積まれ、釜石と同校へ運び込まれた。

本来、各避難所へ分配する予定で調達された衣類だが、現在はガソリン不足に加えて各避難所との連絡も取りにくい環境にあるため、どこに何が必要なのか把握できず、届けに行くこともできない状態。

これらの衣類は23日に吉浜拠点センターへ運び込まれ、市職員やボランティアらが仕分け作業を行った。段ボールや紙袋に詰まった物資は、センターの一室を埋め尽くすほどの量。スタッフは「男女別、年齢別にさまざまな洋服がそろう。必要であれば、取りに来ていただけると助かる」と話している。

なお、同避難所でも依然として下着の替えは不足しているという。

届けられた衣類を分類するスタッフ＝吉浜拠点センター

農薬系の毒物に注意

コメリから津波で流出

陸前高田

陸前高田市は23日、㈱コメリから「高田町にある陸前高田店内の倉庫に保管していた農薬系の毒物が、東日本大震災による津波で流出した」と連絡を受けたと発表した。

被災地の片付けなどで対象の農薬を見つけた場合は、決して触らないよう注意を呼びかけている。

同社ではエルサン乳剤といった農薬系毒物12種類を、鍵付きの倉庫に保管。しかし、大津波によって陸前高田店が甚大な被害を受け、倉庫内の農薬も流出したとみられる。

流出した毒物は次の通り（カッコ内は内容量と数）。

エルサン乳剤（100ミリリットル、2）アドマイヤーフロアーブル（同、3）オンコル粒剤（3キロ、9）カルホス乳剤（100cc、不明）コテツフロアーブル（100ミリ、同）ダイジストン粒剤（1キロ、10）リステレックス乳剤（100cc、5）バスアミドフロアブル（100ミリリットル、2）アドマイヤーフロアーブル（同、3）オンコル粒剤（3キロ、9）カルホス乳剤（100cc、不明）コテツフロアーブル（500ミリ、2）スカウトフロアーブル（500ミリ、同）ダイジストン粒剤（1キロ、10）リステレックス乳剤（100cc、5）バスアミドフロアブル（100ミリリットル、2）カダン4粒剤（3キロ、2）リーブロックスエル液剤（1リットル、17）、モスティラン水和剤（100グラム、9）。

27日まで合庁で小児科診療

大船渡

大船渡市猪川町の県大船渡地区合同庁舎で24日から27日まで、小児科診療が行われる。長野県佐久市の医療チームが担当するもので、時間は午後1時から同3時まで。

行方不明者相談

行方不明者専用フリーダイヤル（TEL0120・80・1471）は、24時間対応で携帯電話からも利用できる。

出張郵便局を開設

きょうから利用可能

高田町に

郵便局㈱は、24日から陸前高田市高田町の鳴石団地内に出張郵便局「ミニポス」を開設する。オレンジ色の車内で貯金の払い戻しが受けられるもので、同社は「大震災により貯金通帳を紛失している方でも、申請してもらえば20万円まで貯金の払い戻しを行います」と利用を呼びかけている。

ミニポスの開設時間は、午前11時～午後2時まで。同社は地震や大雨などの大災害が発生し、郵便局舎が倒壊した場合のサービス拠点として設置。

同社東北支社の和田浩司社長は「当分の間開設していきたいと思っており、通帳や証書、印鑑などを失って困っている人はどうか利用してほしい」と話していた。

同市の戸羽太市長は「被災者は着の身着のままで避難し、お金などを持っていない方々が多い。そのような状況下での出張郵便局は大変ありがたい」と感謝している。

きょうから利用できる出張郵便局「ミニポス」＝高田町の鳴石団地

氷上山が雪化粧

澄み切った青空に映える

高田町

○…冷え込みが厳しかった23日未明、気仙各地の高い山に雪が降った。陸前高田市内で2番目に高い氷上山も真っ白に雪化粧。澄み切った青空に映える美しい光景が広がった。

○…氷上山のすそ野にある市立第一中学校には、今回の東日本大震災によって多くの被災者が生活している。グラウンドでは仮設住宅の建設が急ピッチで進められている。

○…同日午前8時30分に行われた同校避難所恒例のラジオ体操第一中学校から見た氷上山が真っ白に雪化粧

○…冷え込みが厳しかった23日未明、気仙各地の高い山に雪が降った。陸前高田市内で2番目に高い氷上山も真っ白に雪化粧。澄み切った青空に映える美しい光景が広がった。

○…氷上山のすそ野にある市立第一中学校には、今回の東日本大震災によって多くの被災者が生活している。グラウンドでは仮設住宅の建設が急ピッチで進められている。

○…同日午前8時30分に行われた同校避難所恒例のラジオ体操後、屋外に出てきた70歳代の男性は「このような恐ろしい自然もあるんですね」と吐く息を白くさせながらためもあれば、大津波のような美しい自然の光景息を漏らした。

免許更新期限が8月31日に延長

今回の東日本大震災で、免許更新に関する特別措置が行われることが決定した。本県に住所がある人（県外に住所を有し、県内に居住する人を含む）は有効期間が8月31日まで延長されることとなった。

更新期間を迎える人は、免許証に記載している有効期限を過ぎても同日まで運転することができる。

5月上旬ごろまで免許証再交付手続きが優先されるため、早期に手続きをしなければならない人（特別措置が適用されない地域からの転入者、海外渡航する人）以外の免許更新手続きは5月中旬以降にとのこと。

問い合わせは盛岡運転免許センター（TEL019・606・1251）、県南運転免許センター（TEL0197・44・3511）、大船渡警察署（TEL0192・26・0110）まで。

安否情報伝言メモ

▽佐々木敦子（末崎町）は、無事避難していることがわかりました。大船渡町字砂子前2の4、佐々木宅（TEL090・4552・6067）。

▽広田町田端、村上フタジ、ツヤコ、ツトム、同町字根岬49、鈴木隆、マツエ、貢、チカ子、文和ほか子供2人を捜しています。連絡先は鈴木恵子（TEL090・5188・8115）まで。

▽畑中フクミさん（99）を捜しています。大船渡市三陸町越喜来にある特養さんりくの園入居者で寝たきり（歩けない）。さんりくの園の近く（及川石材店付近）で車に乗せたが、その後不明。連絡先はさんりくの園（TEL090・5833・0708）へ。

読書人気復活？

ブックポートにぎわう

話題

○…15日から営業を再開した大船渡市猪川町のブックポート・ネギシ（千葉聖子社長）猪川店。明るい店内は本を求める買い物客でにぎわい、震災前とほぼ変わらぬ光景を取り戻している＝写真。

○…同店によると、19日までに発売された雑誌類に関しては21日に入荷。書籍のほか、震災について取り扱った週刊誌や、時間つぶしになるパズルがよく売れ、中高生が文具を買う姿も目立つ。続き物マンガを全巻買いそろえる人も相当数に上るそう。

○…今後の入荷予定が確定しないため、現在は注文も受け付けていない。ただし、図書カードは使用できるという。営業時間は午前9時から午後5時。定休日なし。

○…被災して同町の親戚宅へ身を寄せているという大船渡町の女性は、「4歳の娘が退屈してしまうので絵本を買いにきました。店内にいると、津波があったなんてウソのように思えますね」と話していた。

あすまで雇用住宅入居募集

大船渡市

大船渡市は、自宅に住めなくなった被災者を対象に、大船渡町と赤崎町にある雇用促進住宅への入居募集を始めた。対象は大船渡宿舎は65戸、赤崎宿舎は58戸となっている。

大船渡宿舎は赤沢地内、赤崎宿舎は沢田地内にそれぞれ80戸ずつある。このうち、大規模な修繕を必要とせず、空室となっている計123戸を対象とした。

いずれも鉄筋コンクリート5階建てで、エレベーターなし。間取りは6畳と4・5畳の和室、台所、風呂、トイレとなっている。

入居期限は原則として9月末まで。家賃・敷金は無料。光熱水費、共益費、駐車場利用料金は各自負担となる。

募集期間は25日までで、応募者が定員を上回る場合は抽選で入居者を決める。

申込用紙は各避難所で配布しているほか、対策本部がある市役所の都市計画課（3階）と商工観光物産課（1階）、町別の地区本部などでも相談に応じる。

緊急措置で現金カードのみ可

JA給油所

JAおおふなとは、緊急措置として燃料給油所で利用できるカードを「現金カード」のみとした。

給油所の利用者に対して利用カードを発行しているが、今回の巨大地震津波で流失したり土砂に埋もれた車両などから、カードの盗難が想定されるための一時的な措置。

このため現金カード以外のカードの利用を休止している。詳しくは、「おおふなとSS」へ。

広　告

謹んで地震災害のお見舞いを心より申し上げます。
東海新報専売店「小松新聞店」は、店舗損壊により配達できない状態でしたが、当面の間、東海新報社内に仮事務所を置き、営業を再開することとなりました。
また、新規購読申し込みも受付開始しております。
購読者の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしましたが、今後ともよろしくお願い申し上げます。
※配達時間にズレが生じる場合がありますが、何卒ご理解下さい。
旧店舗：大船渡町字野々田12-16
移転先：大船渡町字鷹頭9-1（東海新報社内）☎27-1000
東海新報専売店 小松新聞店 ☎090-4314-8641

この度の地震・津波により被災された方々に、謹んでお見舞い申し上げます。
家の片付け・清掃等 お手伝い致します。
※臨時作業員募集中
建設業 新沼組
大船渡市日頃市町字上宿15の2
携帯電話 090・2794・9127